平成27年度校区まちづくり協議会
活動成果報告会～地域で育むまちづくり～
―２日目―

［大正小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○村井氏　それでは、大正小学校区まちづくり協議会の26年度の成果報告をさせていただきます。

大正小学校区まちづくり協議会では、八つの事業を行ってまいりました。まず、青色防犯パトロール事業、防災対策備蓄事業、ふれあい交流事業、地域活動支援事業、地域活動広報事業、地域情報発信事業、防災マップ掲示事業、自主防災訓練事業であります。

それでは、まず、第１に青色防犯パトロール事業について、ご説明いたします。

もともとは、自動車の後ろに書いておりますように、八尾南産業クラブが大正校友会という大正小学校・大正北小学校・大正中学校それぞれのＰＴＡのＯＢ・ＯＧの方々を中心とする会の協力を得て、青色防犯パトロール隊の結成をしておりました。ところが、活動を実施している構成員が働いている世代の方々で、活動する時間帯は、主に夕方から晩の時間帯になっておりました。そこで、大正中学校区にある二つの校区、まちづくり協議会ですね、つまり、大正小学校区まちづくり協議会と大正北小学校区まちづくり協議会がカーシェアリングの考えのもとに、１台の車で大正小学校区まちづくり協議会、大正北小学校区まちづくり協議会が連携して実施するということで、児童の下校時間にも実施するようになりました。

今後も構成団体の協力や一般市民への参加呼びかけによる増員を図り、さらなる事業拡大、例えば、朝の時間帯への拡大などを見込んでいきたいと考えております。

次に、防災備蓄事業ですが、地域において、防災意識の向上や地域の防災力を高めることをねらいとして、平成25年度から大正小学校区まちづくり協議会を構成している各町会の倉庫、集会場などに防災食の備蓄を進めていっております。具体的には、各町会の世帯数と同じ数の缶入りパンを３年スパンで順番にいきわたるように配備していくと、３年後には消費期限もまいりますので、自主防災訓練用に提出してもらうというように実際の活動にも生かしていけるように考えております。26年度は５町会1,236世帯分を配付しております。

続きまして、ふれあい交流事業のその１です。

１月18日に、大和川の河川敷にて、児童だけではなく、大人も就学前の子どもも参加できる耐寒マラソン・ウォーキング大会を実施いたしました。当日は、約100人の参加がありました。マラソンができる世代はマラソンを、ウォーキングができる世代はウォーキングをと、さまざまな世代が参加できるようにイベントの工夫をしております。

次に、これは、マラソンの様子です。寒い中でしたが、子どもたちが元気よく走っ

ておりました。また、マラソンの後ですね、お楽しみということでスプーンリレーを行い、一つの事業の中でさまざまな楽しみができるように工夫をしていったりしております。

続きまして、ふれあい交流事業のその２です。小さな子ども向けのイベントとして、おひさま楽団のさくらいじゅんさんにお越しいただいて、キッズわくわくコンサートを大正コミセンの集会室で実施しました。参加者は、約20名でした。最初は、皆さん、かたい感じでしたが、だんだん音楽に乗ってきて、保護者の方もお子さんも最後はのりのりでした。宣伝の期間が短かったので、参加者は思ったより少なかったんですが、皆さんの反応を見ると非常に好評だったので、27年度も実施していこうと考えております。

続きまして、地域活動支援事業です。地域の交流事業には、地区市民防災をはじめ、いろいろな世代が数多くイベントがあります。そこで、今までコミセンの敷地内に設置した倉庫で、テントなど各種イベントで使用する備品を保管しておりましたけれども、26年度に新しい大正コミセンをつくっていただきました。これは、大和川の水防センターと共用で、新しいコミセンでは、各種イベントの会場となる小学校区から離れてしまい、また、倉庫を置く場所がないということで、25年度、26年度に分けて、地域活動を支援するための備品等を収納する倉庫、大正小学校に１台ずつ設置させていただくということで、平成25年度に１台、26年度にもう１台設置させていただきました。

続いて、地域活動広報事業ですが、地域では、児童・生徒と大人世代の交流事業や、高齢者と園児・児童との交流事業「はとぽっぽ」などの子育て支援の活動、大正川をきれいにする取り組みなど、いろいろな世代で交流をしたり、地域の課題に取り組まれたりしている活動があります。

また、地域には、大和川をはじめ、さまざまな魅力がありますので、広報部会を創設しまして、広報紙を「さざなみ」というネーミングのもとに創刊いたしました。「さざなみ」は、約4,000部を発行して、各町会加入全世帯に配付をし、また、コミセンの棚にも収納しております。「さざなみ」の名前の由来は、さざ波のように初めは小さな地域の取り組みが、大和川の流れのように大きく広がってほしいという願いを込めて名づけられました。

今後は、小さな取り組みもお知らせしていけるように広報紙を考えていきたいと考えております。

続きまして、地域情報発信事業、防災マップ掲示事業です。平成24年度に校区防災マップが校区別の防災マップづくりのためにワークショップを実施して、校区内に防災マップを配付いたしましたが、ややもすると、折り畳んで収納されてしまいがちになると考えられますので、防災マップを掲示するための掲示板を地域の若林、太田新町、太田、沼の４地区で設置していこうと、常に往来の人々の目に触れるようにしていくことで計画しております。平成26年度は、若林地区に設置することで、新しいコミセンの北側の歩道、フェンス横に設置いたしました。

それから、また、地域の魅力、大正小学校地域には、歴史や大和川、ものづくりのまち八尾を代表する工場ですね、八尾空港など住民に知ってもらおうということで、防災掲示板の横空きスペースにそれらを張りつけております。

最後に、自主防災訓練ですが、一昨年までは地区福祉委員会でやっておりましたけれども、昨年度から校区まちづくり協議会が主催して、第１部として、自主防災訓練を行いました。

内容は、応急担架の作成やバケツリレー、あるいは、賄いなどの炊き出し訓練を行いました。給水車も出てきていただきました。

こういったことで、大正小学校区まちづくり協議会の発表を終わらせていただきたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

○斉藤先生　ありがとうございました。大変バラエティーに富んだそれぞれの活動をしていただいているということで、恐らくこの中で、活動を楽しんでおられたのかなと思います。拝見しますと、防犯・防災というあたりは、本当に我々の生活でも大変大事な部分ですので、これは、まず、優先的に活動されるのではないかなと思います。それから、世代交流などもやっておられるということでは、子どもたちも楽しむということで配慮されているのかなというふうに拝見しました。その他、広報というところでも情報発信などもやっておられるということで、非常に全体的に取り組みが進んでおられるのかなと思いました。キッズわくわくコンサートですが、保護者の若い世代の方たちにこういう校区まちづくり協議会の活動に今後、参加をしていただきたいようなことでの連携とか、呼びかけとか、そういったことはされておられるのでしょうか。

○村井氏　まず、始める前に、これは、大正小学校区まちづくり協議会が開催していますよということでＰＲはさせていただいております。

おばあちゃんや、あるいはですね、若いお母さんもお越しになっていましたので、そういった意味では、一つのＰＲかなと考えております。

○斉藤先生　そうですね。

できるだけいろいろな方々、特に若い方々にこれからの校区まちづくり協議会の活動に参加していただきたいという意味では、できるだけこういう機会を逃さずにどんどん活動に参加を呼びかけていただくということも必要かと思います。

また、例えばですね、障がいをお持ちのお子さん、あるいは、そういう家庭、あるいは、家族の方たちとも何か活動ができるようなこともまた考えていただけたらと思います。

ありがとうございました。

［龍華小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○藤林氏　皆さん、こんばんは。

龍華小学校区まちづくり協議会の広報を担当しております藤林と申します。今日は、ひとつよろしくお願いします。

このグラフはですね、まちづくり交付金の平成25年度と平成26年度の支出を対した事業内容でございます。

26年度は、防犯事業、啓発事業、住みよいまちづくり事業、この三つが25年度に比

べましてふえました。反面、防災事業、広報事業、きれいなまち推進事業が減りました。防災、広報、きれいなまち推進の各事業では、25年度に倉庫や用具、備品などを公園や町内にある少しあいているところにいろいろなとこに倉庫類を設置させていただきました。これで、25年度には、そういう建物みたいなものは割と設置ができましたので、物品なども購入しましたことにより減ったものであります。26年度に増加した防犯、そして、啓発、住みよいまちの各事業では、パトロールの強化、それから講習会、講演会の取り組み、そして、世代間交流の支援、また、啓発物等の配付などを地域の方々の事業への参加を多くするという目的もありまして、このようなことに力を入れました。おかげさまで参加される方がかなりふえたと思います。そして、私も広報してますので、校区まちづくり協議会の認識と理解が、私の勝手なことだと思いますが、理解が広がったものと思っております。

次は、各事業の報告をいたします。

これは、交通安全業務の一つでして、龍華小学校の土曜スクールに全校生徒とそして、ＰＴＡの方々、そして、地域の皆さん方が参加しました。自転車の交通安全教室なんですが、これには、八尾警察署と八尾市の交通対策課の協力を得ることができました。ありがとうございました。大人数の取り組みとなりましたが、有効な事業になったと思っております。

これも同じく自転車講習会の１場面ですけれど、全校生徒が参加しまして、約800人ぐらいの参加となりました。

これはですね、防犯講習会ですが、高齢者向けに実施したものです。防犯活動とそのほか防犯活動として、青少年のための夏、冬に特別夜間パトロールを育成会、そして、教員、ＰＴＡ、地域の方で行っています。そして、小学校の校区内では、小学生の声かけなどにも取り組んでおります。

これは、防災事業として、防災訓練を実施したものです。消防署と地域安全課の協力により、龍華小学校で実施しました。この写真はですね、前回のときに子どもに消火器で放水させるのに、訓練であるので、何か的があればというような指摘がありましたので、今年は、前にちょっと映ってませんが、火災の絵を張りつけて、それにかけるように取り組みをしました。

これは、25年度に購入しました備品を何ぼか掲示した、展示したものですけれど、これらの備品、いわゆる防災用品の改めて取り扱いについて再確認をいたしました。

これは、終わりに、今まで防災訓練、その前で終わっていたんですけれど、26年度につきましては、豚汁による炊き出しのこれも訓練の一つとして行いました。災害時にうまくできるかどうか、訓練しました。皆さんで試食していただき、まあまあの評価を得ました。

これは、啓発グッズの一つで、いわゆる町内をきれいにするために、ふんとかを排除してくださいということです。これは、昨年もつくって、少し配ったんですけれど、非常に評判がいいので、26年度も引き続き、配付しました。

次はですね、住みよいまちづくり推進事業の場面ですけれど、これは、世代交流による演芸大会です。

これは、グラウンドゴルフ大会です。年２回、なかなか人気がありますので、やっておりまして、一つは高齢者中心、一つは世代間でやりました。おおよそ120人ぐらいの参加があります。

そして、高齢者と子どもたちのふれあいを推進して、できるだけ高齢者、子どもたちが顔なじみになるというような事業の推進をしました。また、小学校と連帯して、仲間づくりの支援も行っております。そして、健康、これは、健康講座の場面ですが、出張所に26年度に保健師さんが来られまして、これは、やっぱり、協力をいただけねばならないと思いまして、２回やっていただきました。

これは、きれいなまちづくり推進事業として取り組んでいる龍華小学校の西側の花壇の植栽の場面ですけれど、これも小学校３年生100人ぐらいが手伝っていて、そして、今年の５月には、地域一斉活動日を決めて、地域全体の町会単位での清掃を実施いたしました。

以上で報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○斉藤先生　発表ありがとうございました。

こちらの龍華小学校区でも、非常に幅広い活動をしていただいているということで、本当にご苦労さまです。

やはり、先ほどの団体と同じように防犯・防災ということは非常に大事ですので、活発な取り組みをされているということで拝見させていただきました。

その他世代間交流とか広報、きれいなまち推進事業といった幅広い活動もされておられるんですが、あんな活動をしてほしいとか、こんな活動もしてほしいというようなニーズの聞き取りなども、やっておられるんでしょうか。

○藤林氏　活動のそういう要望につきましてはね、取り組み自体が割と子どもと高齢者の方になって、その中間ですね、その方たちには、例えばですね、市民スポーツ祭とか、ふれあいまつりとかいうものにその中間の方がたくさん出て来られますのでね、その方に何かでもう少しその方ができることがないかというのは考えて、例えば、ＰＴＡの方とか育成会の方なんかに取り組みをどうしたらいいかというのはやって、これは、次の今年、27年度の課題の一つにはなっています。

○斉藤先生　ありがとうございます。

そうしますと、例えば、小さな声とか、少数派というようなご意見もなかなか上がりにくいかなと思いますので、もし、余裕があれば、また、アンケートなども考えていただいて、声なき声とか、小さな活動なども目配り、気配りしていただけるとよりすばらしいと思います。

ありがとうございました。

［南山本小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○藤田氏　皆さん、こんばんは。南山本の藤田です。どうぞよろしくお願いします。

私は、昨年、まちづくり協議会の会長となり、今年、２年目を迎えました。昨年もこの場所で緊張しながら南山本地区の活動について報告させていただきましたが、２回目となっても慣れないもので、昨年以上に緊張しております。お聞き苦しい点があ

るかと思いますが、ご容赦願います。

南山本小学校区まちづくり協議会では、昨年度も「子どもから高齢者まで世代を越えた交流のあるまち」をスローガンにさまざまな活動を行ってまいりました。

まず、青色防犯パトロールです。わがまち推進計画の目標「みんなの安全と安心を自らつくるまち」を実現するため、青色防犯パトロール車にて校区内を巡回しています。パトロール車は週に２回を基本として行っております。パトロール車のリース費用、車両の保険料、ガソリン代まで校区まちづくり交付金を活用しています。

また、狭い道路など車が入れないところには、自転車での巡回も行っており、校区内を隅々までパトロールしています。この自転車パトロール活動の様子は、市政だより８月号に「まちづくりルポ」として掲載されていますので、そちらもごらんいただければと思います。

次に、青色防犯パトロール車や自転車パトロールでの見回り活動以外にも地域に３つある高齢クラブが中心となり、登下校時の声かけ、見守り活動も実施しています。この活動も10年以上続けており、子どもたちはもとより、保護者の方や地域の方からも「ご苦労さまです」と声をかけていただくようになりました。また、地域内に啓発のぼりを立て、防犯意識の向上を図ったり、今年度も防犯カメラ３台を設置し、犯罪の抑制と犯罪が起こった場合に警察への協力する体制を整えました。

次は、校庭キャンプです。昨年、２回目の実施となりました。本来は、校庭にテントを張り、キャンプファイアーなど行う予定でしたが、あいにくの雨のため、体育館での実施となりました。しかし、子どもたちにとっては、テントを張ったり、地域の方々とカレーをつくったり、ゲームをしたりと、ふだんでは味わえない貴重な体験ができたと思います。

次は、敬老祝寿会です。式典の後は、幼稚園児がお遊戯をしてくれたり、子どもたちがマジックをしてくれました。また、高齢クラブの皆さんが練習に練習を重ねて、踊りや合唱をしてくれましたが、その踊りや合唱がとてもパワフルで、見ているだけでも元気になる気がしました。

次は、防災訓練です。昨年は、土曜スクールとして、学校と一緒に実施しました。バケツリレーや毛布と棒を使った担架づくりを体験したり、ポンプ車からの放水などを見せてもらいました。また、まちづくり協議会からは、交付金を活用し、災害時に低学年の子どもが使えるような防災頭巾を各学校へ渡しました。災害が発生し、避難する際にすぐに被ることができるよう、椅子に付けてくれています。今年は、高学年の子ども用として、学校へ渡す予定をしております。

防災訓練の反省としては、土曜スクールとして実施したため、学校が中心の訓練となり、地域の方の参加が少なかったことです。今年度実施の際は、多くの地域の方に参加していただけるよう、工夫を必要と感じています。

最後は、ふれあいまつりです。３回目となる昨年は、始まる直前にゲリラ豪雨と強風に見舞われ、開催自体が危ぶまれましたが、役員をはじめ、地域の皆様がグラウンドの整備や舞台、模擬店の設営を懸命にしてくださり、何とか開催することができました。いつもこの舞台の後ろには、「ふれあいまつり」と書いた縦３メートル、横９メートルもある大きな幕を張るのですが、雨によりずぶ濡れとなった為やむなく外し

ました。

開催後は、大雨が降ることもなく、舞台発表や模擬店は大盛況となり、来場していただいた方には楽しんでもらえたものと思っております。皆さんが楽しみにしているお祭りを何とか成功させようと頑張る役員をはじめとして、南山本の地区の皆さんの姿には感謝するとともに、事故やけがもなく無事終えることができたことにほっとしています。

今後も地域が一つになって、さまざまな活動や課題に取り組んでまいりたいと思います。

これで私の報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○斉藤先生　拝見しまして、やはり、防犯からふれあいまつり、校庭キャンプとか、敬老祝寿会、幅広くやっておられるということで、平素の活動ご苦労さまです。

例えばこの敬老月間、この活動はどこの校区もやっている伝統的な活動ですので、こういうときには、かなり小学生も参加されて、世代間交流というようなこともされるわけですが、高齢化社会も進み、こういう敬老月間だけではなく、平素から年間を通じて、こういう子どもたちが高齢者の見守りといったところで何かかかわることができないか、一歩踏み出した新しい企画を工夫していただくと、より小学生、あるいは子どもたちと高齢者の交流もより深まるのかな、あるいは、理解が深まるのかなというふうに思います。そのあたりもまた、考えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

［八尾小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○米澤氏　皆さん、こんばんは。

八尾小学校区まちづくり協議会の平成26年度の活動成果を報告させていただきます。協議会会長の米澤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

八尾小学校区は、平成27年３月末現在、世帯数約6,000世帯、人口約１万2,600人でございます。八尾市のほぼ中央部に位置しまして、古くから商店街を中心に栄えたまちでございますが、近年は、スーパーなど大規模小売店舗をはじめ、マンションが林立するなど、周辺の校区も含め、大きくさま変わりしてきております。

八尾小学校区まちづくり協議会が、校区まちづくり交付金を受け、平成26年度に取り組んだ事業といたしましては、広報、地域福祉支援及び防犯・防災の３事業に大別されます。その決算額は、150万円となりました。

まず、広報事業では、「八尾小学校区まちづくり協議会ニュース」を発行しまして、八尾地区自治振興委員会を通じて回覧、掲示を行うとともに、市役所本館１階の地域活動情報ラックに配架するなど、協議会のＰＲに努めました。

また、多くの校区の方々が集まる行事等において、大型パネルを作成しての協議会

のＰＲ展示、各種印刷物の配布、住民アンケート調査を実施いたしました。

なお、住民アンケート調査は、本年度実施のわがまち推進計画改定作業のための意見聴取でもございます。

協議会の各種情報を発信して、校区の方々へ周知し、アンケートを実施することにより、校区の方々の意識を把握することで、開かれた協議会の運営に努め、まちづくり事業のさらなる充実、発展を図り、わがまち推進計画の改定、実現につなげることで、校区への愛着心の向上に寄与することとなりました。

次に、地域福祉支援事業では、協議会の地域福祉用物品であります、ＡＥＤ及び車椅子の管理、展示及び使用体験を実施いたしました。

８月31日の日曜日、八尾小学校区集会所で開催されました、八尾地区自治振興委員会防災訓練では、ＡＥＤの展示及び車椅子の使用体験を、他の訓練等とあわせて実施いたしました。

また、10月19日の日曜日、成法中学校で開催された、第32回八尾小校区市民スポーツ祭では、協議会のブースを設置しまして、地域包括支援センター「成法苑」のご指導のもと、車椅子の使用体験を実施いたしました。

加えて、前述の広報事業として、協議会のＰＲ展示、各種印刷物や啓発ペット水「わがまち八尾」の配布、住民アンケート調査を実施し、後述の防犯・防災事業として、水消火器セットの貸与を行い、障害物競走や防災リレーなどの競技で活用されました。

さらに、市民活動支援ネットワークセンター「つどい」のご協力を得まして、「つどい」に登録された市民活動団体「緑の少年団いちょう」と「八尾市トランポリンエクササイズ協会」にご来場いただき、前者は、植木鉢へのお絵かきを、後者は1人用ミニトランポリンを使ったエクササイズ体験を実施していただきました。

また、お昼の休憩時間には、校内放送を利用し、「成法苑」や「つどい」等にその活動をＰＲしていただきました。

このように、市民活動団体や校区内施設等との連携、協力による取り組みを進めることで、地域課題の増加、多様化に対応できるよう努めてまいりたいと考えております。

最後に、防犯・防災事業では、協議会の防犯・防災用物品であります、水消火器セット、油圧ジャッキ及び防犯カメラ、そして、新規購入したスピーカーシステム及びＬＥＤ投光器の管理、活用及び貸与を実施いたしました。

主たる行事といたしましては、２月22日の日曜日、八尾小学校において、八尾小学校区防災訓練を仕切り直しで開催いたしました。

当日は、小雨がパラつく空模様で、開催するか否かを相当迷いましたが、炊き出し訓練に豚汁を予定しており、その具材を無駄にしないためにも、決行を決断いたしました。雨も、幸いたいしたことなく、無事終了することができました。

この防災訓練は、当初、６月22日の日曜日に実施を予定しておりましたが、悪天候のため、中止となっていたものです。

消防署の栄町出張所のご協力により、水消火器セットを使用した消火訓練、油圧ジャッキを使用した救助訓練、ＡＥＤの模擬機を使用した救命訓練、簡易担架の作成とけが人の運搬訓練、テント内での煙中体験を実施しました。加えて、災害用仮設トイ

レの組み立て訓練、これを組み立てたり、解体したりを何回も行い、熟知していただきました。それと、災害用非常食の炊き出し訓練、スピーカーシステム及びＬＥＤ投光器の動作確認を実施いたしました。

さらに、前述の地域福祉支援事業として、ＡＥＤの展示及び車椅子の使用体験を実施し、広報事業として、協議会のＰＲ展示、「わがまち防災マップ」などの各種印刷物や啓発ペット水の配布、住民アンケート調査を実施いたしました。

当日は、約250名の参加がありました。各種訓練や体験等を通じて、その知識や経験が蓄積されることで、防災に対する意識の向上が図られ、災害時、緊急時の迅速な対応が可能となり、もって、安全で安心なまちづくりに寄与することとなりました。

また今後は、内容の充実を図るとともに、地域コミュニティ醸成のため、総合的な校区ふれあい行事への発展も視野に入れてまいりたいと考えております。

以上、八尾小学校区まちづくり協議会の平成26年度の活動成果を報告させていただきました。

ご清聴ありがとうございました。

○斉藤先生　発表ありがとうございました。

１年間とはいえ、これだけの活動をしていただくのは、大変なことだと拝見しておりました。

広報事業と防犯・防災事業についてご説明いただきましたが、資料の後半に書いてございます子育て支援事業については、校区内の各種団体が行う子育て事業を支援するための会合を行ったと書いてございます。これからというところですか。

○米澤氏　そのとおり、これからの課題ということにしております。

○斉藤先生　交流ふれあい事業も同様に検討しておられるということですね。

このように既存の団体、各種団体の方たちの活動というのも非常にパワーとエネルギーがあるかと思いますので、そういったところとコラボするのは、校区まちづくり協議会の方たちにとっても担い手、後継者という点で課題として考えていかないといけないと思います。今後の担い手の育成、後継者育成を念頭におきながら、これからも活動を継続していただけたらと思います。

○米澤氏　今後の課題とさせていただきます。

○斉藤先生　ありがとうございました。

［西郡まちづくり協議会による活動成果報告］

○吉村氏　こんばんは。

この６月に新会長になりました吉村と申します。桂小学校区まちづくり協議会ですが、地域では、西郡まちづくり協議会というような表現をさせていただいております。といいますのは、1996年にまちづくり委員会というのがもう既に独自に立ち上がっておりまして、現在は、その部分を継承する形で校区まちづくり協議会という形で活動を一生懸命やっておるようなことでござい

ます。よろしくお願いいたします。

当然、東日本大震災が起こる、阪神・淡路大震災の経験もございますが、地域防災ということで、その実践研修会を昨年も、昨年度といいますか、行ってまいりました。この２月、今年の２月にですね、たまたま東日本で被災された方が地域の関係者におられまして、お話をですね、直接伺う機会がございました。大変厳しい生活、現在もその生活を余儀なくされておられる多くの方々がおられるわけですけれども、そのお話を直接伺って、事前にいろんな形で被災したときにはどう対応しようかということを、その人のお話を聞きながら、危機感を持って、学習会等いろいろな実践を体験してきたようなことでございます。私の記憶では、桂老人福祉センターがございますので、高齢者の方が活動中に被災した場合、どうするんだというそういった危機感もありますので、やはり、若い人たちの手助けがないと、こういった高齢者の方々を助けることはできないということで、極端な例ではございましたが、小学生の高学年の子どもさんにも協力いただきながら、集団で老人福祉センターに出向いて、そして、高齢者の方々で歩けない人等は車椅子を利用して、桂小学校へ被災、防災基地のところまで逃げていくという訓練をさせてもらったりしたことがございまして、臨場感のある防災訓練ができたのではないかなというように思っております。

その他防災のグッズいろいろ試してみなければわからないということで、実際の防災のいろいろなものを実際に使わさせていただいたり、そういった実践を行ってまいりました。

次に、ふれあい交流事業ということで、私の地域は、スーパーマーケットがないんですよ、近くには。もう一番近いところで、近鉄八尾北側の大型・中型商店まで自転車で行かないとだめだということで、近くには、地域の中にはコンビニエンスストアもないんです。だから、自転車に乗ったり、車で移動できる方はいいんですが、もうかなりの高齢者で自転車にも乗れない、歩くにしても、もうとってもやないけれども、200メートルも歩いたら息が切れるとそういった超高齢時代に、うちの地域は、八尾の地域でもかなり高齢化が進んでおりますので、そういった方々のためにということでもないですが、もともとは月に１回、第３土曜日に第３集会所を使って、数字もわかりやすいということで、もともと月に１回しかできないんですけれど、ボランティアでグループが、有志がですね、特に野菜なんですよね、新鮮な野菜がすぐに手に入らない状況がありますので、高齢者はそんなたくさん買えないですね。トイレットペーパーも持っていくのが大変なので、この月に１回ですが、トイレットペーパーも言っていただいたら、おうちまでボランティアで若い人が運んであげようというそういったことも取り組んでまいりましたけれども、それが、その取り組みが、もうまちづくり協議会ができたということで、今年の４月でしたかね、まちづくり協議会のほうに移行して、その取り組みにできるだけまちづくり協議会には地区福祉委員会さんも入っておられますし、民生委員さんも入っておられるということで、多くの方にこういったふれあい朝市にもかかわっていただけるようになって、意義がだんだん広まっているようなことでございます。できるだけコンビニ等の誘致についても、八尾市の、今日、市長さんおられますが、何とかならないかなというご相談をさせていただいて

いるような状況でございます。

餅つきについてはもともとこれも有志でやっておりましたが、もちろんこの杵とか臼とか、まちづくり協議会のお金をいただいて、また、新調できたということです。大変ありがたいことだなと。今までこういった200万円近い予算といったら、そういうようなのは、独自でしなければならないことはなかなかできないことで、これが欲しい、あれが欲しいといっても、やっぱり、予算が八尾市のほうでつけてくれないとできなかったんですが、今は、自分たちのアイデアでこういったものも買わさせていただくことができたし、テントが幾つか見えているとは思いますけれども、もうテントも昔のスチール製のテントで重たいほろをつけるのも大変重労働でしたけれども、今は、ワンタッチで折り畳みの軽いテントが出てますから、それも新調して、５張りぐらい買いましたかね。それで、このふれあい朝市にも利用させていただいているということで、設営がほんとに楽になって助かっております。

これは、広報事業ということで、「はな緒」という地域の機関紙があったんですが、各施設の老人センターとか、保育所とか、青少年会館だとかもろもろの地域には施設がありますが、そこの部門で情報交換を全地域に配っておりますが、いろいろな方のご協力をいただいて。その中に、まちづくり協議会の情報ですよね、いついつ餅つきがあるんだったら餅つきがありますよとか、防災訓練がありますよということを地域の方々にきちっと情報が届くようにこういった情報、機関誌をつくって、みんなで情報を共有しておるという、これも地道な活動ではございますけれども、今後も力を入れて頑張ってまいりたいと思いますので、ご理解のほどをよろしくお願いします。

私からは以上です。ありがとうございます。

○斉藤先生　ありがとうございました。

この西郡まちづくり協議会は、もともと地域でいろいろな取り組みをされていたということでお聞きしましたが、こういう校区まちづくり協議会のシステムができましたけれど、そういった担い手の方というのは、より充実してきておられるか、お聞かせ願えますでしょうか。

○吉村氏　先ほど申しましたように、19年前にまちづくり委員会というのが地元で出来まして、私、初代の会長をやらせていただきましたけれども、その当時は、やはり、血気盛んな若い人たちの集団みたいな感じでやることはやりますけれども、なかなか理解が深まらないですけれども、でも、まちづくり協議会というのは、いろいろな八尾市の既存の諸団体の方々、まあ、先輩方ですね、私、まだ、61歳ですけれども、ほんとは会長すべきじゃないんです。もっと年配の方もおられるんですが、もうぜひともお願いしたいと言いましたが、私にやれという命もありましたので、受けましたけれど。そういった形で、私よりも十分経験のおありで、いろいろな福祉事業、民生活動をやってもらえる方々、そういった方々、今までもよく存じておりますけれども、今まで以上にそういった既存といいますか、いろいろな諸団体の方々と交流がどんどん深まっていっているし、やろうとしていることが、みんなで理解が深まっていってるなという実感はございますね。

○斉藤先生　ありがとうございました。

発表の中で、ふれあい朝市では、若い人がボランティアでかかわっておられるというようなことですので、他地域の方もまた、

参考にできるように、若い人たちがどう参入できるか、あるいは、かかわっていけるかという他地域にも参考にさせていただけるような形で活動をお願いいたします。

ありがとうございました。

［高美小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○西川氏　皆さん、こんばんは。

高美小学校区まちづくり協議会の西川と言います。私は、会長ではなく、事務局をしてますので、いろいろまとめて、それでしゃべらせていただきたいと思います。

当協議会は、防犯、防災、福祉と３本柱で活動を行っておりますけれども、今回は、この２月に行いました１泊２日の避難所体験訓練というのをしましたので、その模様をちょっと述べたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、このような企画をしましたのは、実際に防犯・防災用のグッズ、倉庫にたくさん置いておりますけれども、実際使えるかどうか、使ったときにどういう問題があるかどうかというのをやってみようということで企画したんですけれど、それも、そしたら、一番条件的に厳しい２月ぐらいにやって、寒いときならどうなるだろうとそういうことで、半分怖いもの見たさかなというそういう感じで始めたことになりました。

実施日は、今年の２月21日から２月22日の朝にかけて行いました。

これが、そのときの予定表なんです。簡単に書いて、大体こういう形で進めようというような形で段取りしたものです。

これは、実際、お昼１時過ぎに始めたときの私どもの会長の挨拶で大体趣旨説明、どういうふうにやっていくかというようなことを行っている様子です。このときに備蓄倉庫からものを出したんですけれども、その出すときに、１週間前にどこに何が入っているかというのを確認しておいたのですけれども、実際、倉庫の外にこれこれこれが入ってるというような紙とかそういうのを張ってなかったものですので、実際出す段になると、すこし時間かかって、簡単に出せるものが30分、１時間ぐらいかかってしまったというようなことがありました。それが一つの反省点かなと思っています。

次は、これ、そのときの防災用のグッズで煮炊き釜なんですけれども、実際、これは、まきをくべて燃やしているところです。そのまきも、実際、新聞紙から火をつけて、それで燃やすという、実際、油でぽっとつけてやるような方法もありますけれども、実際にこういうふうにやって、どれだけ時間かかるかというようなことも実験してみたかったのでこういうふうな状態にしました。

次もそれを今度、実際、火をおこしたときに今度、お湯を沸かして、どういうような形でどのぐらい時間がかかるのか、実際の冬場だったら、相当時間かかるなという。このとき、大体30分ぐらい実際に沸くまで

にかかるような感じになりました。

これは、トイレの組み立ての様子です。大きなドント・コイという大きなトイレ、実際、中にためて使えるようですけれども、結構大きなものですので、見ていただいてもわかるように、たくさんの人数かかって、それで20～30分かかるような状態になっておりました。

それが組み立てた中身の状態です。この下のタンクにたくさんものをためれる、実際、本当のときにどのぐらいたまるかというのは、今回、ものを入れるわけにもいきませんでしたので、何人分ぐらいになるのかというのはわかりませんでしたけれど、結構入るのかなというような感じで見ておりました。

これが、その全体像です。テントで覆われて、女性の方でも実際、中に隠れてできるという、プライバシーが確保できるようなものになっております。

また、水に困ってはいけないということで、学校のプールから水が出せるようにということで非常用の浄水器を買ったんですけれど、これ、実際、今回は展示のみで出させていただきました。といいますのは、実際のときに使うときには、飲めるような水にするということのためにフィルターを３層使います。そのフィルター１枚が相当な金額かかりますので、訓練のためだけにそれを使ってしまうというのは非常にもったいないということで、今回は展示のみということでさせていただいてます。

また、発電機、電気も必要だということで発電機も用意して、実際、組み立てて、さあ、動かそうかというときになったんですけれども、何分にも初めてのことなもんで、さあ、動かそうかと思ったら、潤滑油が要るということで、潤滑油を慌てて買いに行くというような状態になりました。それだけではなく、発電したものを今度、照らす灯光器とか、それも今回、用意してなかったもので、電気の場合、生産と消費が同時に行われている、そういう肝心のことを忘れていたものですので、実際、慌てたときにこういうふうにならないように心配になりました。

先ほど沸かしたお湯を使って備蓄米、アルファ化米と、そして、ぜんざいをつくったときの様子です。

その後、消防署の方に来ていただいて、ＡＥＤの訓練と、地元の防災士の方で手近にあるもので、これはストッキングを使って骨折したときに手を支えるというそういうような使い方の訓練、あと、例えば、顔にかぶっていただいて血どめをするとかそういうような形の訓練もいたしました。

一度休憩した後、これは、晩の７時からなんですけれども、地元の小学校の校長先生ひっくるめて、地元の防災士の方に来ていただきまして、小学校を避難所開設するに当たってどういう問題があるかとかいうのを一緒に話し合って訓練をしたという次第です。

最後ですけれども、体育館で実際、１泊で泊まったんですけれど、これは、その時、真っ暗やみで写真を撮ってなかったものですので、この夏に私どもの会長にモデルになっていただきまして、こういうような状態で泊まったということで、実際、今、一番上にあるのが防犯、アルミシートで断熱用のこういう薄っぺらいものです。これは、実際、あのぐらいの大きさになってますけれど、折り畳んだ状態で敷いたら、ポケットティッシュぐらいの大きさですので、簡単に入ってます。そして、冬場はすこしかたいですので、ジョイントマット、これを

３枚縦につないでやりました。１枚の大きさが600ミリの角になってますので、たまたま実際のときには、３枚縦につないでぐらいしか使えないだろうということで判断してしたわけですけれども、手で触った感じではやわらかいんですけれど、実際はすこしかたかって、このアルミシートも寝返りを打つたびにごそごそとうるさい音がしましたので、そういう面で問題があるんかなと思います。

最後になりましたけど、先ほどの心肺蘇生法です。このときに消防士の方に来ていただいて説明いただいたんですけれど、ＡＥＤのときに、我々地区福祉委員会とか校区まちづくり協議会のメンバー、結構ＡＥＤの訓練してます。ただし、これ、もし、小さいお子さんの場合にしたときに大丈夫なのかというふうに言われたときに、皆さんなかなか手が進まなかったんです。そのときの言葉で、「訓練のための訓練になってないか」というような言葉をいただきました。そういうことを肝に銘じて、次からも頑張っていきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

○斉藤先生　発表ありがとうございました。

大きく三つの活動ということで、防犯と防災と世代間交流ということで、お聞きしておりますと、防災訓練も、備蓄の管理が大変だということがうかがいしれたと思います。三つ目の世代間交流などは６月22日にスポーツの集いを11月13日に昔の遊び交流会をおやりになり、世代間交流が行事の中で行われていると思います。ふだんの世代間交流というようなことでは何かございますか。例えば、登下校とかの見守りとかそんなことはございますか。

○西川氏　登下校に関しましては、毎日、私どもは特殊な例がありまして、学校の北東角の交差点でほぼ14～15年前になりますけれども、夕方、下校している当時小学校５年生の子どもさんが、左折する車に巻き込まれて死亡するという事故がありました。それ以来、やっぱり、朝もずっと見守っていかないといけないということで、地元の高齢クラブの方と青少年指導員の方が毎朝、立っていただいておりますし、それと、昨年より自治推進委員会等いろいろな協力を仰ぎまして、市長にもお願いいたしまして、小学校の北側を朝の交通規制をかけていただくようなことも活動しております。

○斉藤先生　ありがとうございました。

そうですか。そういったことがございまして、大変なことですね。

そうしますと、担い手としては今、お苦しい感じですか。ちょっとお聞かせ願えますでしょうか。

○西川氏　実際のところといたしましては、苦しいというのが本音です。といいますのは、次の世代となりますような特にＰＴＡの方なんですけれども、なかなかなり手がないということで、私自身も小学校、中学校、その後、ＰＴＡ協議会の会長ということもさせていただいていろいろ活動してきたんですけれども、ＰＴＡは楽しいよというふうに言っておるんですけれども、なかなか活動に参加していただけないというのが本音でございます。

○斉藤先生　はい。これは、どこの地域でも課題といいますか、悩みをお持ちだと思います。

こういう年間の行事で世代間交流をされるときに若い方、保護者さんに校区まちづくり協議会の活動に参加していただく工夫を検討いただいて、後継者、担い手を育てていっていただきたいと思います。

ありがとうございました。

［上之島小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○安木氏　皆さん、こんばんは。

上之島小学校区の会長の安木でございます。どうかよろしくお願いいたします。

我が小学校区は、八尾市の北東に位置しておりまして、約3,000世帯の小さな小学校区でございます。そして、いよいよ３年目を迎えまして、田中市長の１丁目１番地の施策ということで３年間連続200万円の交付金をいただきまして、楽しく活動をさせていただけますことを、まず、高いところではございますが、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、山本コミセンのスタッフの皆さんにもいつもご指導、ご鞭撻をいただいております。この件も重ねまして、お礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて、私どもの活動は五つの柱がございまして、まず、広報宣伝、２番目には世代間交流、３番目には防犯・防災事業、４番目には高齢者支援、５番目には子ども支援ということでございます。最初の広報宣伝でございますが、常に心しておることは、私たちの活動が地域住民の方にいかにＰＲをして、その活動をよく知ってもらえるかどうかということと、後継者の育成でございます。そのために今回は、中古パソコンを３台購入いたしまして、各部会の若手のメンバーで、特にパソコンをやったことのないメンバーを選定いたしまして、５日間、このパソコン教室を行いまして、ようやくイベントの案内状なんかも作成できるようになった次第でございます。

次に、広報宣伝といたしまして、この校区まちづくり協議会ニュースを年１回発行いたしまして、全戸配付をしております。

次に、少子高齢化とともに核家族化が進みました関係上、この世代間交流というのは非常に大事になっておりまして、我が小学校区では、世代間交流としては、一つは盆踊り大会、二つ目には市民スポーツ祭、三番目にはグラウンドゴルフ大会、この三つを中心に今、進めております。この盆踊り大会も昨年から毎年２日やっておったのを１日に減らしました。昨年は残念ながら雨で1,000人ほどしか参加がございませんでしたけれども、今年は晴れですばらしい盆踊り大会ができましたことをご報告させていただきます。

次に、グラウンドゴルフでございますが、これもなかなか人気がありまして、グラウンドゴルフ同好会というのをつくっておりまして、60名メンバーがおります。そして、大会は11月８日に行いまして、80人が参加いたしました。これは、子どもさんから高齢者まで和気あいあいと世代間交流の活動ができた次第でございます。

次に、防犯・防災でございますが、これは、6年生を対象に行う校庭キャンプを利用いたしまして、このエアゾール式の簡易消化具を使用し、初期消火の訓練を行いました。また、災害時、屋外でのテントを張る訓練として、交付金を活用いたしまして、テントを８張りを買いまして、一昨年の８張りとともに16張りで訓練をおこないまし

た。これでしっかりと整えることができました。

同じく防犯・防災事業といたしましては、左側の絵のほうはですね、一昨年に続きまして、南海トラフ大地震に備えようということで、大阪府の職員に来ていただきましてセミナーを行いました。これも非常に皆さん、関心が高うございますので、非常に好評でございました。右側のほうは、子どもの防犯ということで、外部の警備会社の方に来ていただきまして、防犯に対しての、備えや対処法を実演・実技を交え行っていただいた次第でございます。

次に、高齢者支援事業でございますが、昨年、高齢者クラブ「喜楽会」というのを立ち上げまして、毎月第１日曜日に喜楽会の開催を小学校の集会所でやっておりまして、40～50人いつも参加をしております。それとともに、こちらの左側のほうは、健康セミナーでございまして、この健康、高齢者に対する健康セミナーも非常に力を入れて今、やっておる次第でございます。

それとともに、第一回目の敬老の集いを９月15日にいたしまして、約300人ほど参加いたしました。ともにやはり、こういう会合に出てくる高齢者はいいんですけれども、来られない方もたくさんいらっしゃいます。その方に対し昨年の４月に、私は、地域見守りボランティアの会というのを立ち上げまして、ひとり暮らしとかですね、ひきこもりがちな高齢者に対するいろいろな活動もやっております。

次に、子ども支援の事業でございますが、これは、一つはサッカー教室です。未来からの使者、または宝と言われておる子どもをですね、スポーツを通じて、心を豊かでたくましい子どもを育てようと、地域で育てようということで幼稚園児から中学生を対象に活動しています。今、会員が約40名おりまして、将来のＪリーガー、なでしこをめざそうというこの夢と希望を持って、青少年指導員のメンバーのもとで毎月、第３土曜日、練習をやっておる次第でございます。平成26年度は、フットサルのゴールを２基購入させていただきました。

それから、同じく子ども支援といたしまして、平成25年度は、西宮のキッザニアのほうに行きましたが、26年度は、子どもと保護者に対して、ＣＡＰを開催し、ワークショップをいたしました。このＣＡＰというのは、子どもへの暴力防止という意味でございますが、子どもさんもですね、保護者もこれを通しながら、あらゆる暴力やいじめから身を守るということの意識を高めたということでございます。

それと、右のほうは、子どもの見守りでございまして、これは、自転車のかごに取りつけるもので、まず、役員の方に50枚つけてもらって、走り回っております。今年もまた、追加で50枚買って、町会等にも配付する予定でございます。

そういうことで、今も申し上げましたとおりに、この五つの柱を根本にいたしまして、このすばらしいまちづくり、幾つになっても安心・安全にして暮らせるまちづくりをめざし、また、世代間交流を通しながら、後継者を育てていくという活動を楽しく今、やっておる次第でございます。

以上でございます。ありがとうございました。

○斉藤先生　大変お元気な発表ありがとうございました。

○安木氏　ありがとうございました。71歳でございます。

○斉藤先生　本当に結構で。

こうして発表を拝見してますと、地域が

とっても活発に。

○安木氏　いや、まだまだこれからでございます。

○斉藤先生　これだけたくさんの活動を活発にされておられるということで、ほんとに幅広く世代間交流も考えておられますので、例えば、障がいをお持ちの方とか少数派の方とか、そういった方たちとも何か交流とか、活動を考えていただきたいですね。

○安木氏　そうですね。次の段階で今、考えておりますけれども。災害時のときの対応ということで。

○斉藤先生　そうですね。そのあたりも念頭に今後の活動メニューを広げていっていただきたいと思います。

　ありがとうございました。

［北山本小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○田中氏　北山本小学校区のまちづくり協議会の田中でございます。よろしくお願いいたします。

　私どものほうは、安全・安心まちづくり整備事業、それから、世代間交流事業、青色防犯パトロール事業等やらせていただきました。

　今回は、世代間交流事業について、ちょっと詳しく説明させていただきたいと思います。

　これは、ふれあい喫茶の事業でございます。私のほうは、月１回、第１日曜日の９時半から福万寺公民館において開設をしております。利用者は、子どもから高齢者が利用できます。毎回、50～60人の方々がコーヒーセットで楽しんでおられます。

　運営の主体は、若人の会にお任せをしております。地域のボランティアさんは、皆さんの地区と同様に高齢化が進んでおり、後継者の育成が望まれますが、当地区では、20歳代、30歳代の男女により運営されているのが大きな特徴でございます。

　喫茶オープン時は、女性８名、男性５名程度でお世話をしていただいているところでございます。

　また、そのふれあい喫茶を利用しまして、ほかのプログラムを入れてやらせていただいてます。一つは、昨年の６月に、以前ありました二つのこども会が発展的に解散したいとの相談がございました。当地区の福祉委員会のほうで６月１日にこども会、コスモスこども会を新しく結成をいたしました。そのかわりに、地域のお百姓さんのご協力を得まして、サツマイモの苗を植えたり、あと10月のふれあい喫茶のときにそのサツマイモを地域の方々、ふれあい喫茶のご利用の方々におもてなしをいたしました。帰りには、サツマイモのプレゼントをし、子どもとの交流を行ったところでございます。

　また、保健師さんとの連携、協力により、利用者の方々の健康チェックとして、血管年齢の測定をやっていただきました。大体50人程度予約がございまして、測定では、約１分から２分、個人の血管年齢と健康チ

ェックのデータが示されますので、「あんた、何歳」、「私、何歳」などなど大いに盛り上がったところでございます。

今後も半年に１回程度、ふれあい喫茶オープン時に継続して健康相談の窓口として、地域の保健師さんなり、コミセンの方々と協力しながら、そういう窓口として位置づけていきたいと考えておるところでございます。

校区まちづくり協議会の新しい取り組みとして、第１回目のふれあい広場を11月３日の祝日に山本町北第２公園、通称キリン公園にて開催をさせていただきました。当日は、地域の住民の方々約600名近く参加くださり、半日、楽しく過ごしていただきました。当地区では、初めての取り組みでしたが、多くの方々の参加をして、関係者一同、ほっとしたところでございます。

出店につきましては、ボランティアグループさん、中心は、小地域ネットワークのグループと、あわせて、ひとり暮らし高齢者の会のさつき会、それから、６月にできましたコスモスこども会も出店をしてくれました。

中で遊ぶものとして、景品付でございますけれども、幼児から高齢者の参加による紙皿飛ばし、これは、普通の市販の紙を飛ばして、何メートル飛んだかという簡単なものなんですが、非常に盛り上がりました。

また、健康相談の窓口として、保健婦さんや地域包括支援センター「スローライフ八尾」さんの協力を得ながら、ヨガ教室やパネルの展示を行いました。

最後に抽せん会を行いまして、何と子どもが特賞を当て、大いに盛り上がりました。

また、地域住民の方々の生活をバックアップしてくれている車両の展示も行いました。地元の福万寺の消防団による消防車の展示、子どもたちは運転席に乗りまして、お父さんやお母さんに写真を撮っていただいてました。それから、青色防犯パトロール車の展示でございます。水道局からは、災害時の給水車と八尾の水の配付などを行いました。

参加者もボランティアさんも顔見知りではありますが、まだ、知らない人同士も挨拶をされるなど、地域が一体となったお祭りでございます。

今年は、障がい者作業所や消防団、祭り保存会も参加したいとの申し出があり、約15店舗の出店を予定しております。口コミでもっともっと広がったらいいなというふうに考えております。

これは、青色防犯パトロール事業開始に当たって、各小学校、北山本小学校の子どもたちにお披露目をした写真でございます。この事業は、山本小学校区のまちづくり協議会との協働事業でございます。北山本と山本は地域が隣接しておりますので、それでまあ、両会長の話し合いでやってみようということでやらせていただいております。北山本小学校区では、ご存じのように北山本地区と高砂地区の地区福祉委員会がありまして、両地区それぞれ自主的に校区まちづくり交付金の事業もやっていただいているんですが、今回、防犯パトロール事業ということで、50名もの青色防犯パトロール協力者によりまして、月初めの１日から15日まで北山本が担当してパトロールを実施しております。

また、北山本小学校区、山本小学校区では、双方で両地区内をパトロールすることになっており、どこかで青色防犯パトロールが回っているということになろうかと思います。

また、北山本小学校の協力を得まして、

校歌を校区内をパトロールするときにスピーカーで流しております。スピーカーで流しますと、子どもたちや地域の方々の反応もよく、地域と学校が一体化し、効果が上がるものと思っております。

子どもたちは、こういうお披露目をした関係上、私たちに手を振ったり、声をかけたりしますけれども、子どもたちからも挨拶や手を振ってくれることもあります。

その他としましては、防災に関する備品、物品の充実、防犯カメラの設置、５月31日には、北山本小学校の土曜スクールの一環で、６年生の協力を得て、ひとり暮らし高齢者に対する日中の災害発生を想定した避難誘導訓練も実施しました。６年生全員に自主防災、避難誘導リーダー証を交付しております。

また、高砂では、盆踊り事業も開催しておりまして、それぞれ北山本小学校区まちづくり協議会として事業を展開しております。

なお、あと広報については、各事業ごとにＡ４の広報紙をつくりまして、何々便りということで全戸回覧しながら啓発に努めさせていただいております。

また、今年は、アンケート調査の実施予定でございます。

以上、北山本小学校区まちづくり協議会の活動報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

○斉藤先生　発表ありがとうございました。

本当にさまざまな活動を展開しておられ、ふれあい喫茶などは、20代、30代の方がやっていただくということで、本当に心強い活動を展開しておられます。

また、子ども会のほうも発展的解消して、コスモス子ども会を進めておられるということでは、この地域も活発に活動されておられるというふうに拝見しました。

また、防犯は、最近、香芝市で日中に11歳の女のお子さんも連れ去られたというような深刻な状況ですので、防犯は、ほんとに重要な活動であるかと思います。

安全・安心なまちづくりのところを拝見してますと、防災に関する備品、物品の充実を図ったと書いてございますので、物品、備品などの充実が図られた後は、ソフトの面でどんなふうに交付金の使い道があるのかというようなことを検討いただき、研修とか、学習会といったところで、活用の道があるのかなと思います。その辺ご検討をいただいて、これからの活動に参考にしていただいたらと思います。

ありがとうございました。

［曙川東小学校区まちづくり協議会による活動成果報告］

○山下氏　皆さん、こんばんは。曙川東小学校区まちづくり協議会の山下でございます。

それでは、ただいまより平成26年度におけます当校区の活動につきまして、簡単にご紹介を申し上げます。

当地域は、校区まちづくり協議会の発足

以前からいろいろな事業、地区福祉委員会が中心となりまして展開してまいりました。その中で、うまく連携をしながら、これから説明をさせていただく事業も進めてまいったところでございます。

まず最初に、世代を超えたふれあい活動事業としまして、毎年７月の最終土曜日に開催しております世代を越えたふれあい祭りでございます。この催しも今年で第20回という節目の年を迎えました。地域住民が心待ちにしている地域の夏の風物詩になっていると認識しております。事前の準備を始めとして、いろいろたくさんの準備がございますが、地域住民の実行委員約250名の協力のもとで開催しております。

夕方より地域の伝統文化である講念仏踊りの披露や地域内で行われているさまざまな活動の舞台発表が行われ、その舞台は、平成25年度の校区まちづくり交付金で作成した組み立て式の舞台を活用させていただいております。

今回のふれあい祭りもそうですが、私たちの地域の活動においては、地域のみんなが力を合わせて取り組みを進めていくという方針のもと、テントの設営、また、やぐらの設置、ちょうちんの取りつけ等々で、何もかも手づくりで進めてきたところでございます。ここに写真がございますが、これは、その光景の一部でございます。

続いても、世代を超えたふれあい祭りの光景でございます。また、あわせて、各種団体による模擬店や町会加入促進や地域包括支援センターの相談コーナーなどが開設されるほか、７時からは盆踊り大会を実施し、音頭取りの歌声に合わせて、日ごろの練習の成果を発揮して、高齢者から子どもたちまで踊りを楽しんでいただいております。

今年度の参加者の総数は、約、推定ですが、2,500～3,000名ぐらいかなというふうに推測しております。

続きましては、高齢者憩いの場づくり事業として、平成24年度から校区まちづくり協議会が主催となって、地域の高齢者を対象にした敬老祝寿式を開催しております。平成26年度においても、９月15日の日曜日に開催し、雨天にもかかわらず、約100名の高齢者の方々が参加していただきました。催しでは、地域の小学生によるアトラクションや日本舞踊、また、そして、メーンイベントとしての落語家を招いての演芸などを用意いたしまして、皆さんに楽しんでいただきました。

高齢者の皆さんが気軽に集え、交流を図れるような仕組みづくりをこれからも進めてまいりたいなというように考えております。

なお、校区まちづくり交付金を活用して、落語家さんへの謝礼、及び高齢者の皆さんへの防災グッズなどの啓発用品をお配りさせていただきました。

続きまして、同じく高齢者憩いの場づくり事業の中で、平成26年度では、校区まちづくり交付金は活用しておりませんが、校区まちづくり協議会の取り組みの一つとしてご紹介させていただきます。

主に高齢者の方を対象として、毎月第２、第４金曜日、地区集会所において、うんどう教室を開催しております。この教室では、昨年度から出張所に配属されました保健師さんや保健センターとタイアップいたしまして、高齢者の方に対する健康相談や、食事等の指導援助、簡単にできる運動指導などを行っており、今年度では、外部からも講師を招き、ノルディックウオークの講習などに取り組んでまいりたいと考えており

ます。

高齢化社会が言われる中、健康で長生きしたいというのは、みんなが望む思いでもあります。これからも地域のみんなが気軽に体を動かしながら、健康づくりを行っていけるよう行政を初め、関係機関と連携をつくりながら、進めてまいりたいと考えております。

次に、地区集会所で開催しているＩＴ講習についてでございます。

当校区では、校区まちづくり交付金を活用して、ＩＴ講習を実施しております。平成26年度では、８月から３月にかけて、ワード６回コース、パワーポイントが４回コース、エクセルが６回コースでそれぞれ開催いたしました。受講者はワードが８名、パワーポイントが11名、エクセルが15名で、皆さん丁寧な指導のもと、基本的な操作方法を習得されておりました。

高齢やその他の理由によりコミセンや生涯学習センターなどの講座へ行くことの困難な方が利用しやすいような学習の場を提供することにより、本来の意味の生涯学習を地域で支援していければと考えております。

また、受講生の方の中から、今後の校区まちづくり協議会のいろんな情報を発信していただけるような人材の発掘や育成につながっていけるようになればと願っております。

写真は、当集会所で実施しておりますパソコン教室の風景でございます。

次に、災害に強いまちづくり環境整備事業です。写真は、昨年10月26日、日曜日に開催した校区まちづくり協議会主催の当校区の防災訓練の光景であります。

近い将来、発生が予想される災害に対し、住民１人１人が助け合い、どのように行動すべきかを確認し合うために、当日は、各町会単位で集合場所を定め、高齢者から子どもまでみんなそろって曙川東小学校の運動場まで避難訓練を兼ねて集合していただきました。

訓練では、参加者を４ブロックに分けて、初期消火訓練や応急手当習得訓練、煙中訓練、それから、通報習得訓練、また、炊き出し習得訓練などについて、順次体験をしていただきました。

あってほしくない災害でございますが、もしものときのためにどう行動すべきかを考える機会になったと思っております。

今後も校区まちづくり協議会として、安全・安心の取り組みの中心として実施してまいりたいと考えております。

なお、当日には、地域の安全・安心な取り組みをさらに一層推し進めるために、大阪府警やその他の関係機関と連携した地域安全センターの立ち上げ式を開催しておりますので、申し添えておきます。

続きまして、最後、地域拠点整備事業でございます。

当地域は、八尾市の東南の端っこに位置して、また、最寄りの出張所からも少し距離があるため、高齢者や障がいをお持ちの方々には少し不便な場所にございます。

こうした中、曙川東地区の集会所は小学校の北東角にございまして、いろいろな講座やスポーツ、地域活動の拠点として利用しております。

地域の皆さん方に気軽に集ってもらい、会話を楽しんでいただき、交流の場として積極的に活動してもらえる場として、さらに集会所を使用していただければと考えております。

こうしたことから、地区集会所を地域活動の拠点として重要な位置づけを行い、校

区まちづくり交付金を活用して住民からの相談などを受け付ける。相談窓口の設置に向けて、地区集会所を整備いたしました。

こういうことで、第１水曜、第３水曜日に午後から相談窓口を開催しているところでございます。

言いかければ、何ぼでも言うこといっぱいあるんですけれども、以上で当校区のまちづくり協議会の報告とさせていただきます。

住んでよかった、また、これからも住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めてまいりたいと思っていますので、皆さん方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げまして、報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

○斉藤先生　どうも発表ありがとうございました。

冒頭のこの世代を超えたふれあい活動事業としてのふれあい祭りですね、20年もやっておられるということで、この地域の名物お祭りということで聞かせていただきました。また、2,500～3,000人という参加をいただいているということで、地域にも定着したものだというふうにお聞きいたしました。

また、幅広くいろんな活動をされてパソコン教室などもやっておられます。２番の高齢者憩いの場づくり事業、地域の誰もが集える場としてふれあいサロンの開設をめざし、環境整備を行ったということなんですが、これは、高齢者に限定されておられるんですか。

○山下氏　そうですね。最終的にはね、全住民対象にというように考えておるんですが、今のところはまだ、とりあえず、まだ、皆さんの協力をいただかないとできませんので、そこらの確保からやっていかんといかんと思っております。

○斉藤先生　先ほども集まる場として、高齢者の方、障がい者の方でも参加できるようなという発言もありましたので、バリアフリーとかいろいろな配慮はされておられると思うんですが、こういう活動への案内に対して、障がい者の方はどうしても広報も届きにくいというハンディーキャップもございます。広報するときに障がい者の方にも案内が行き届いてるのかというきめ細やかな配慮もしていただいて、幅広くいろいろな活動に参加していただけるようにご配慮お願いしたいと思います。

ありがとうございました。

［斎藤先生による全体講評］

○斉藤先生　改めまして、今日は少しコメントをさせていただきました関西福祉科学大学の斉藤です。皆さん、こんばんは。

各地域の皆さんの活発な活動をお聞きして、本当に頭の下がる思いで聞かせていただきました。防犯・防災活動、簡単に一言で言いますけれども、日々のいろいろな物品管理やら、準備等、本当に大変かと思います。それもですね、１回やったら終わりということではなくて、ずっと続けていっ

ていただくという意味では、ほんとにそれぞれの地域の方のご苦労がしのばれるということでございます。

しかし、今回こうして八尾のほうでは新しい取り組みということで、交付金という非常に心強いバックアップをいただいて、皆さんの活動を後押ししようということですので、皆さんも多分力が入っておられるのではないかなと思います。

今日、拝見いたしまして、ほんとにさまざまな幅広い活動を展開しておられますので、恐らく皆さん、余裕を持って、左うちわでということではないんじゃないかなというふうにお聞きしております。そして、私も質問させていただいたんですが、後継者不足とか若い方の参入といったところでは、皆さん、課題を抱えておられるのではないかなと思います。

しかし、先ほどの後半の活動では、20代、30代の方がボランティアでふれあいの活動をしておられるということも発言がありましたので、こつこつと地道に若い方、あるいは、後継者の方を育てていくということで皆さん、今後も活動頑張っていただきたいと思います。

まだ、校区まちづくり協議会の活動も３年ということですので、交付金も最初は、ハードの面ということで充実させていくところが中心になるかと思いますが、４年、５年と続いていくにつれてどういった形でその交付金を活用していくかという課題に直面されるのではないかなと思います。この時代ですね、まちづくりは行政に頼むとか役所の方に何かお願いするという時代はもう終わりました。自分たちの住むまちですから、１番事情がわかっているのは住んでいる方というところでは自分たちでまちづくりをしていかないといけない。しかし、市民の方だけではとても回らないという意味では、行政と連携して、やっていくというのがこれからのまちづくりです。

特に八尾は、潤沢な交付金が制度として組み込まれたわけですから、全国的にも先進的な取り組みということで、注目されておられるので皆さんの肩に期待がかかっているということが言えると思います。

ただ、市民の方全員に参加していただくというのは困難です。その中で声なき声とかこんな活動もやってほしいなという声も上げにくいような方への目配り、気配りまではまだこれから時間がかかると思います。次年度、アンケートやニーズ調査なども含めて皆さんからやってほしいもの、あるいは、市民の方々ができることを出し合って、どんな活動を展開していくかということを皆さんで考えていただけたらというふうに思います。

この校区まちづくり協議会というのは何か人のためにやるというのではなくめぐりめぐって自分に戻ってくるという意味では自分のまちをよくしたい、老後を最後まで住み続けたい、魅力的なまちをつくっていくという意味で、一生懸命人のためにやることが、結局は自分のためにも返ってくるということが言えるのかなと思います。

最近は、近隣関係が希薄化していると言いますが、これは、何も我々の気持ちが何か冷たくなったということではないんじゃないかと思います。都市化、高齢化、現代の社会構造がマンション一つとってみても、オートロックでなかなか民生委員さんも入れないというような状況ですから、少し声をかけようと思っても入れないわけです。おのずと近隣関係が希薄になって、そういう社会構造になっているのかなと思います。

ですから、この八尾市のこの制度でもう

一度そのまちづくりをつくり直すと言いますかつながり直すというようなことで、意図的にコミュニケーションを活発にしていかないといけない。かつては、農村社会では少し煩わしかったり、みんな共同作業をするというようなことで、プライバシーなんか全然ないというようなしんどい時代もあったわけです。それが、都市生活ではドア一つでマンションなんか閉めれば誰からも邪魔されないということです。それでプライバシーの確保もある、匿名性で生活もできて、そして、快適なコンビニもあれば誰ともしゃべらなくても１日を過ごせるという、ある面ではとっても快適、便利なんです。しかしそれが、現在、大変なコミュニケーション不足、あるいは、人間関係希薄な状況をつくり出しているということです。我々は、あえて、人と人とのつながりをつくっていかないといけないということですね。それが、何かしんどいとか、面倒くさいなということではなくて、我々、やはり友達と会ってコミュニケーションして楽しい、人と会って、笑顔で、またなというようなことで別れて、次に会えるのを楽しみ、人と人との交流が１番我々の心を豊かにするんじゃないかなと思います。これから自分のためにも、そして、まちのためにも、人と人とのつながりというものをとにかく進めていかないといけないということが言えるのかなと思います。

この人と人とのつながりというのは、我々が非常に大事に持っている社会関係資本という、言葉はかたいですが、福祉の世界でもソーシャルキャピタルなんていうようなことで見直して、ここの部分で社会福祉の制度をもう一度見直そうというような機運が盛り上がっております。

そういったことで、我々は、ごみ屋敷になる前に予防的にちょっと声をかけて差し上げて、そんなふうにならないように、これは、もう自分にも返ってくることだと思うんです。私も、母が軽い認知症になっていましたので、必ずや私も認知症になるというふうに確信はしているわけです。そういう意味では、若いうちから人と人とのつながりで、自分のことも地域にわかっておいてもらおうということを常々考えているわけなんです。

確かに向こう３軒両隣の人は知っているけれども、もうちょっと５軒先とか、８軒先の人は、名前も知らないというのは、ありますよね。家庭と職場とあるいは、学校との行き来ですと、そんなに地域の人としゃべったということも少ないかもしれません。

国民生活白書でデータとしては古いんですが、生活面で協力し合う近所の人の数なんていうことになると、ゼロと回答した人が６割以上もあるというんですね。でも、それは、あんまりびっくりしない、我々もそうかなというようなところがありますよね。それは、やっぱり、我々の今の非常に慌ただしい生活であんまり交流する機会が少ないですよね。そういう意味では、この八尾市の校区のまちづくり協議会の活動というのは、まさに、今、時代が求められている活動ではないかなというふうに思います。先ほどの白書の中で困ったときに助け合う関係を望む人、誰ですかというときに、やっぱり、地域でのつき合い、近隣の人というようなことが63％。私の母もひとり暮らしで晩年、倒れました。娘たちが電話するんだけど、出ない。お隣の方に電話して、見てもらいましたら、案の定、倒れておりました。救急車で運んでいただいて、救命救急センターに運ばれました。やはり、隣

の方ですよね、近所の方。そういった方を頼りにするという方が、６割ですので、これから日ごろ近隣の方と交流を深めておく必要はあるということがはっきり言えると思います。

そして、調査結果の中で、人間関係が豊かな地域ほど犯罪率も低いし、出生率も高いというような調査結果が出ているようです。確かに安心して暮らせるまちですと、犯罪も起こりにくい。ただ、最近は、本当に閑静な住宅で、犯罪が起こらないようなところでも、突発的に起こりますので、油断はできないわけですけれども、そういう意味でも、近隣で声をかけ合うというようなことは非常に重要です。

今日、市長がおっしゃったまちづくりというのは、何かこうすればいいという打ち出の小づちとか、正解みたいなものはない。地域福祉というのは地域性がありますので、Ａ地区でうまくいったものをＢ地区で、まねしてやるというのは、うまくいくかどうかは決まってないわけです。その地域の実情に合わせて、その地域に合った形でやっていただく。先ほど61歳の方が、僕は、まだ会長をする年齢ではないんだけどとおっしゃってましたね。確かにどこでも70代、80代の方が現役で会長やっていただいているのはよく聞きます。

地域による差が大きいので、今日の活動などは、大いに参考にしていただきつつ、自分の地域で取り入れられるか、アイデアとやり方を参考にしていただいて、自分のところでうまく花開くかどうか、やっていただいたらと思います。

後継者、担い手、これはどこの地域でも課題になっていると思います。最近、発表がありました。最近の高齢者は昔の高齢者に比べ10歳ぐらい若く体力も気力もというような報告がありました。退職年齢は65歳ですが、まだ知識や経験は豊富で、ぜひ、地域デビューということを地域でしかけていただいたらと思います。

エネルギーあふれる若い退職高齢者の方は、地域の担い手予備軍が、次々に地域に帰ってこられるということで、高齢社会というピンチをチャンスにしてやっていただきたいというふうに思います。

最後になりますが、いろんな調査で、地域に貢献したいという方が非常に多いというふうに出てきます。ただ、きっかけがないとかあるいは、活動そんなことやってるの、知らなかったとかがあります。それから、やや若い方はネット世界で日々過ごしておられると思いますので、ネットの活用なども駆使していただいて、今もブログなどで載っております。あとは、子育て支援の活動なども組み込んでいただいて、ぜひ若い世代に校区まちづくり協議会の認知を高めていただく。そして、若い世代にも自分の子育てで、協力してくださるというところで、一緒に活動を担ってもらうというふうに、若い方、若い高齢の方、若い世代の方に緩やかにバトンタッチをしていただくということがこれから必要になってくるのかなと思います。

最後ですが、どんな地域にも、天性のお世話好きな方というのはおられます。そういった方を発掘していただく。あなたもまちづくりの実業家ということで、いろんなノウハウを持っておられる方、おられると思うんです。「つどい」という中間支援組織がありますので、そことも連携していただいて、新しい企画を開発していただきたい。また、少数派の方や活動に参加しにくい方などにも目配り、気配りをして、呼びかけていただくことで、１人でも多くこう

いう活動に参加していただけたらと思います。

交付金もまとまったお金が出ておられるということですので、まちづくりプランナーなどもおられますので、学習会とか、勉強会とか、ワークショップで、資金も多少は使っていただくことができるのかなと思います。ブログ等でネットで発信しておられますし、広報紙でも発信しておられます。全国的に注目されているこの八尾市の校区まちづくり協議会をぜひその魅力をますますこれからアピールしていただいて、皆さんの活躍を期待しております。

本日は、ありがとうございました。